

KSKR

ひまわり

だより



ひまわりの家/社会福祉法人ひまわりを支える会 2023. 3. 22

No.80

日頃より社会福祉法人ひまわりを支えていただいています会員の皆様に感謝申し上げます。

2020年当初より新型コロナウイルスは全世界的なパンデミックとなり、かつて経験がない行動制限が余儀なくされてきました。

ひまわりも何度かのクラスターを経験しましたが、現場スタッフの懸命の努力により都度乗り越えてきました。このような「危機」に直面した時こそ、組織とスタッフの「力」が問われることを改めて学びました。またその「力」は日々のたゆまぬ努力にこそ源泉があるものとなりました。

さて、約1年前ロシアによるウクライナへの軍事侵攻は未だ解決の糸口さえ見いだせていません。

岸田政権は、安保三文書の改定を閣議決定し、敵基地攻撃能力を保有し活用する方針を明確にしました。相手国がミサイル等を発射する前に「日本の攻撃に着手した」とみなして相手国を攻撃するというものです。その為の武器の購入など2023年度から5年間の防衛費総額を43兆円と現在の1.6倍にするとしています。

既に沖縄=琉球弧には多数の自衛隊員が配備されミサイル基地が建設され軍事的要塞と変貌し、またもや沖縄=琉球弧が戦場の場となろうとしています。先制攻撃すれば必ず反撃を受けます。そんな覚悟を国民は持っているのでしょうか？

軍事力で平和が訪れることなど幻想です。日本の平和外交力こそ最も求められていると確信します。戦争は対岸の火ではなくなりました。改めて平和について考えていきましょう。

社会福祉法人ひまわりを支える会 古川 友則

☆七彩屋☆～ORIORI～

2023年2月10日(金)～12日(日)奈良町物語館にて、奈良県で障害のある人達の働く事業所により手織りの販売会『ORIORI16』があり、七彩屋も出展しました。コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催でした。七彩屋は、作品の販売と織り体験コーナーも担当しました。

体験コーナーを担当したメンバー西本春夫さん。『コロナでできなくて、ようやく織り体験をすることができた。30人限定で、29人の人が体験してくれた。丁寧に伝えたら、お客様が「さをりの端がきれいに織れたのでビックリした」と言ってくれて嬉しかった。またさをりの織り方を伝えたいと思った。また来年も開催できたらいいな。』と話してくださっていました。



★陶芸★

楽天奈良はぐくみストアにて出品していた鹿晴シリーズ食器72セット、全て完売いたしました。目に留めてくださっていた皆さま、ありがとうございました。

鹿晴シリーズ食器は、ひまわりの陶芸活動を長年支えてくださった、故・奥野敏晴先生とひまわりの家陶芸メンバーとで作ってきた作品です。今は奥さまの容子先生と一緒に作っています。鹿の子模様のお皿やカップ、鹿の角を型どったスプーンなど、奈良らしい愛らしい食器です。シリーズ食器は全て、メンバー1人1人の手作りによるため、同じ模様はありません。大きさも少しずつ違ったり均一ではありませんが、またそれが味わいとなっています。



☆これからの予定

- ・3月15日(水)～30日(木) 七彩屋感謝祭 みそら屋にて
- ・3月26日(日) 平群マルシェ出展 ミーモにて
- ・4月15日(土) ポケットマルシェ出展 橿原文化会館にて
- ・4月21日(金)～24日(月) 福祉の素材展 グッドモーニング坊城にて



もちつき大会を続けて行きたい

年末の恒例行事として、ひまわりを支える会のもちつき大会は楽しみな行事のひとつです。毎年予定通り行われてきたもちつき大会ですが、今年度は予定していた12月17日が新型コロナウイルス感染症で中止となりました。

「なんとか続けて行きたい」そんな思いで、今年度はひまわりの活動としてもちつきをして、みんなで食べよう！と、年が明けた1月7日に開催することができました。



待ってました！かのように「よいしょ！」の掛け声から順番に、緊張しながらも、楽しそうに杵を振り上げるメンバーさん、そして、たね保育所の子供達は、杵の重みを感じながらお母さんに手を添えてもらい、力いっぱいお餅をついていたシーンは、印象的な思い出となるでしょう。

寒さに負けず、行事を楽しみ、協力しながらもちつきをして、日本の伝統行事の雰囲気を感じてもらえたのではないのでしょうか。そして、ついたお餅は職員でまるめ、厨房でお雑煮を作って頂きました。ついたお餅はやはり格別です。みなさん、うれしそうに食べておられました。

「もちつき大会」という伝統行事を、これから先も試行錯誤しながら続けていけると願います。そして来年度のもちつき大会は、多くの参加者で賑わってお正月を迎えていきたいです。

ほどらいこ



今年度新しく男性の利用者さん2名迎え入れました。4月に部原末幸さん、7月に矢口幸二さんが増えました。また、スタッフも増田佳太さんが1名加入して活動しています。来年も、この調子で、ほどら、いこ。

2階、七彩屋



感染症やメンバーとスタッフの高齢化に伴い、次々と湧き出てきた事柄を、2階のチームワークと皆さまのご協力でご協力でき、次年度もたくさんの力をお借りして、『チームひまわり』で、臨みたいと思っています。

おーくん



メンバーさんの手作り雑貨の仕事が増えました。最初は、商品になるまで難しかったですが、今はアイデアが浮かび、たくさんの雑貨達が増えました。今後は、あちこちのマルシェに参加し、たくさんの雑貨を披露したいと思います。

たねさん



小規模保育園へと移行して、0~2歳児の園児で過ごしました。大きなけがや事故なく元気に楽しく過ごせて良かったです。来年度も異年齢児と関わりながら、少人数保育を活かして楽しく過ごしていきたいと思っています。



相談支援

気がつけば花粉症の季節。今年度も相談支援にどう関わってきた？ これまた、あっという間のことで、何が出来たか？と思う事しかありませんが、来年度は、もう少し体調を整えながら、皆さんとの関わりを深め、楽しく仕事をしたいなと思っています。 by 與浦

みそら屋



昨年4月より「みそら屋」に勤務しています。コロナ禍で飲食業界は苦しい日が続いておりますが、ランチも売り切れになる日も多々あり、お客様に愛されている「みそら屋」だと実感しています。次年度も笑顔にあふれたお店でありたいと思います。 by 稲山

ぷあん



今年もソーセージやハム作り、内職、畑...といろいろやるぷあんです。コロナで控えていたソーセージ教室や販売イベントの参加も、今年ではできるかな??そちらもお楽しみに!!

キム・ホンソンという生き方

—在日コリアンとして、障がい者として—

ひまわりを支える会の学習会が、2月23日あざさ苑で行われた。金洪仙(キム・ホンソン)さんが「キム・ホンソンという生き方—在日コリアンとして、障がい者として—」というテーマで話をされた。

ホンソンさんは、1951年に広島で生まれ、大阪市住吉区で育った。民族学校に通っていた12歳の夏休み、家計を助けるため兄が始めたプラスチック工場の仕事を手伝っていて、機械に両手を巻き込まれ手首から先を切断された。



事故後は、何もできない自分を否定していたが、受け入れてくれる多くの友人に支えられ「私はこの条件で生きていく」と思うようになった。それから、事務員、民族指導員、結婚、子育て、大学の非常勤講師を経て現在に至るまでを笑いを交えて話された。参加者から次々と質問が出され、「なぜそんなに前向きになれるのか」という質問には、「この私をまるごと受け入れてくれる友だちがいたから。お互いに相手を受け入れる社会だったら、みんな明るく楽しく生きられると思っている」と答えられた。

その後、ホンソンさんが編集された、障がい者のドキュメンタリーの動画を視聴しました。最後に、ホンソンさんは、「まず自分が幸せでないと人に優しくなれない。ぜひ幸せに暮らして欲しい」と結ばれた。



♡美術部♡

2023.4.1sat.~4.16sun.

HIMAWARI美術部

WAKU WAKU
ART

奈良県立図書情報館
2Fエントランス
9:00~20:00
月曜休館 観覧無料

奈良県立図書情報館
Nara Prefectural Library & Information Center

奈良県立図書情報館にて、展覧会「HIMAWARI美術部展~WAKUWAKU ART~」
が開催されます。期間は、4月1日~4月16日です。
みんなで頑張っていますので、ぜひご覧いただければと存じます☆

ごあいさつ

ひまわりの家施設長 喜多学志

2022年度、終の棲み家としてのグループホーム、「いなほ・みのり」がスタートしました。ひまわりの家メンバーと家族の高齢化に伴う「8050問題」解決に向けての一步となりますが、夜勤を伴う支援者の人材確保は難航し、対策としてベトナム、キルギス、インドネシアなどの海外人材を積極的に採用し、人材育成に努めています。法人全体でサポートし、多様な人材や文化にも対応した新たな組織づくりを行っています。それは、ひまわりの家が目指す「いい支援とは何か」ということを再考し、丁寧に伝える機会にもなっています。

ひまわりの家では、あくせく働いたり、きめ細かく決められた制約時間もなく、メンバーは皆、最低限の決められた約束事の中で思い思いに活動しています。スタッフはその横にいる存在であり、相手の話を傾聴し、一人ひとりの「尊厳のある暮らし」について向き合っています。相手に対し、「させる」、「させなくてはいけない」というような関係性や空気感がなく、誰にとっても居心地が良いと実感できる居場所を創っていくことが我々支援者の役割です。相手の気持ちを理解し、求められていることに適切に応えられる人材とは、一人ひとりが持っている「人権感覚の差異」をどう捉え、支援の現場に活かしていくのか。多文化共生とは、などなど思索にふける日々です。

ひまわりの家メンバーが仲間とともに過ごし、自分らしく生きられる社会の実現に向けて今後も取り組んでいきます。

3年に及ぶコロナ禍において、人は窮地に立たされた時にどのような言動を取るのかを学び、試された期間でもあったと感じます。いつの時代においても、人は皆不安とともに生き、様々なリスクを抱えながら生きています。人は他者に何を求め、何を許容するのか、個々の偏見や差別感、価値観についても、常に問われています。

政府は、ウクライナ情勢や台湾有事などに備え、日本の安全保障・防衛政策として5年間で43兆円の防衛費の増額方針を明言し、説明も不十分なままに進めています。国民の生活に過度な不安を与え、然も正しい判断であるかの如く邁進していますが、防衛力を強化すれば国際秩序は本当に保障されるのでしょうか。甚だ疑問にも感じます。「戦争」は人災です。人間によって始められ、人間が止めることができるものです。先日、トルコ・シリアでは、大規模地震が発生し5万人以上の方が亡くなられ、世界各地から支援が届けられています。自然災害発生において人間は無力ですが、災害被害を軽減することはできます。人々の不安を煽るだけではなく、安心して暮らせるための外交努力とは如何なものなのか問い続けたいと思います。

また、国連の総括所見により、日本の障害者施策に対し抜本的改善を求める勧告を受けても尚、なんの変化も期待できない国の姿勢にも憤りを感じます。5月以降に実現するであろう新型コロナ5類型移行後の社会形成に向けて、私たちが出来ることは何かを取捨選択し進めていきます。行く道を見誤ることがないように...

- 編集後記
- ◆ワンコたちの抜け毛が凄い!抜け毛まみれの服を見る日々に、春の訪れを感じます。(来住)
 - ◆上着を着たり脱いだり大変な季節です。昼と朝夕の温度差が・・・(赤瀬)
 - ◆長かったマスク生活もようやく終了かと思いきや、花粉がこのほか多く飛散で、まだまだかな?(矢野)

KSKR ひまわりだより tel 0745-42-2919 fax 0745-42-2921

編集人：ひまわりの家 / 社会福祉法人ひまわりを支える会

連絡先：奈良県磯城郡三宅町伴堂850番地 定価：10円

発行人：関西障害者定期刊行物協会 〒543-0015大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F